

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職オリエンテーション時に必ず職員の心得と共に渡すし話をしている。又、目に付くところに貼付し意識付けをしている。会議やその他の機会を利用し話をしている。	常に利用者を中心としたチームケアを理念として掲げ、意識付けに取り組んでいることが掲示物や会議資料により分かります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに招待頂いたり、施設のお餅つきに来て頂いたり、散歩の途中でご近所の方とお話をさせて頂いたりと最近特に桜坂の方々との交流が深まっている。今後地域の清掃活動や地域との共同の防火訓練も行っていく予定	事業所のある住宅地自治会との交流が深まっています。地区祭りや花火見物など地域への地道な働きかけが、実を結んでいることが分かります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ出来ていないが今年こそは取り組みたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や地域の方々 又、ご家族より活発な意見や指摘を頂き、会議録を職員に回覧。改革改善を図っている	地元自治会の代表者が運営推進委員として参加し、積極的に意見発信してくれていることが記録からもよく分かります。また外部評価結果についても検討し、現場実践に反映していることが良く分かります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヵ月に1度の運営推進会議を行い意見交換 又不明な点は都度伺いながら確認をしている	運営推進会議に行政担当者が出席した際に、現状報告やヒヤリ・ハット報告などを通じて意見交換をしていることが諸記録からも読み取れます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない場合という事を大前提に行っている。ご家族に承諾書を頂き、毎月会議時に代替案はないか・本当に必要か否かの検討を行い、併せて拘束についての学習会も行っている	事件事例などを検証するとともに、会議や研修会で、身体拘束とは何かについて学習・研鑽を行なっていることが確認できました。言葉による抑制についても検討し、言葉づかいなど実践に反映させていることが分かります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の時間を利用して虐待についての学習会を行い虐待防止への意識を持つよう働きかけている。又、夜間など対応困難な利用者に対しては臨機応変に人員を配置する。又夜間は主任や管理者がサポート出来る体制をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設研修で予定していたが本年度は未実施におわった為来年度は計画実施出来る様取り組む		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時 時間をかけて説明を行う 又、変更があった時など個別に対応、説明を行う。又面会時や家族会などで疑問や意見は何う様にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議時に、要望や意見等伺う機会を設けている。また、面会時等職員に気軽に声をかけて頂くよう常々話している。	年1回の家族会を開催し、意見交換をしていることが記録により確認できました。	外部評価結果を活用し、ご家族の評価と事業所が行なったアウトカム評価のズレなどを検討していくことが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループ会議を月一度行い、意見を出し雰囲気づくりと日ごろから意見の言える関係づくりを心掛けている	利用者支援について、利用者担当制をとっており課題を申送りノートを活用して抽出・共有化をはかり情報交換ができるように工夫がなされています。管理者との個別面談の機会も設定し、色々な方法で意見や提案を吸い上げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年も同じ課題を挙げていたが自己評価や振り返りを実施出来ていない。来年度こそ是非客観的な評価基準を作成し、やり甲斐や向上心を持って働ける職場環境を作りたいと思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	小規模ネットワークの研修会へ出かけたりして、少しずつ交流の機会を増やしている。又、他施設との交換実習にも取り組み職員の資質向上を図っている(3施設)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ネットワークの研修会へ出かけたりして、少しずつ交流の機会を増やしている。又、他施設との交換実習にも取り組み職員の資質向上を図っている(3施設)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者には、生活歴や病歴 趣味や出来る事 出来ない事 等細かく本人や家族に伺い職員で情報を共有し、不安の軽減に努め信頼関係を築く事が出来る様努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に大まかなフェースシートを作成し、家族の困っている事 施設に気を付けて欲しい事をなどを十分に伺い可能な限り要望を受け入れる姿勢と誰にでも気軽に相談できる関係づくりを心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズをしっかり受け止め、必要としている支援を見極め、本人家族と共に目標を設定し、初期のケアプランを作成。変化があればその都度柔軟な対応を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の有する能力を見極め、認め、役に立つことに喜びを感じられるような、声掛けと対応を心掛け共に助け合って暮らす者同士としての関係づくりを心掛ける		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加型の行事を多く企画して交流を深め、気軽に面会に来れる雰囲気と、面会時にはゆっくりして頂ける環境作りを心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新規入居時に本人や家族の希望があれば可能な限り馴染みの家具や物品を持ち込んでもらう。面会や外出、外泊も出来る限り柔軟に対応	ご家族が来訪時、宿泊していけるような体制を整え、ゆっくりと関係性を深めることができるような支援を実施しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や利用者同士の関係は日々職員が把握し調整に努める。お互いの関係が難しい利用者同士には職員が中に入り、できるだけ良好な関係が築け支え合える様配慮する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何らかの事情でサービスが中断し終了しても必要に応じて気軽に相談や支援に乗れる関係を維持できるよう心掛ける		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念である利用者本位を念頭に置き 何かを判断する場合、常にそれは利用者にとって本当に良いことか否かを常に判断基準にしている	利用者の発した言葉をそのまま記録に残し、家族も交えた協議を通じて支援に結び付けていることが諸記録からも確認できました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族や本人に生活歴や趣味 好む事 好まない事 等詳しく伺い把握し介護に活かしている又新しい情報は都度経過を記録し、職員で情報を共有するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をシートに行い、細かく書く必要がある場合は2号用紙に記録又業務日誌や申し送りノートに記録それぞれがサインし情報を共有する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に本人や家族の意向を聴取、また利用者担当がケアプランの素案を作り、担当者会議で話し合い介護計画を作製	ケアマネジメントの過程に沿って支援が展開されていることが諸記録により確認できました。	プランとモニタリング内容について、具体性に欠けるところがありますので、今後ステップアップを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の身体状況や生活の状況を1枚の用紙で1週間が把握できる様ようにし職員は必ず記録を読み日々の記録をケアプランに活かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を面会や会議ケアプラン作成時に伺い出来るだけ要望に添える様柔軟な対応を心掛けている。個別の外出や個別のレクリエーションや活動にも対応できる様心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区自治会 子供会との交流を益々深める祭りや、公民館活動へも参加を増やしていきたい。又近隣への散歩や買い物も日常生活にもう少し取り入れる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診や嘱託医に関して本人や家族の希望を伺い主治医を選択。主治医とも密に連絡を取りながら、医療機関、本人家族に細かに情報提供を行う	利用者やご家族の希望に沿い、かかりつけ医や協力医との連携のもと医療的支援が行なわれています。体調や受診時の情報交換も丁寧に行なわれていることが、支援記録からも分かります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での変化や気づきを職場毎看護師に相談、必要と判断されればすぐに医療機関に連絡し指示を受ける		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時可能な限り看護師が付き添い、的確な情報交換を行う。又入院中も病室訪問やソーシャルワーカーとの情報交換を密に行い早期退院できる様体制を整えたり、退院後も気軽に相談できる様良い関係づくりを心掛けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の施設の体制と方向性を説明し、本人や家族の意向を書面で確認又、状態に変化が生じた場合都度主治医を交え、家族と話し合いながら方針を共有する。職員も話し合いながらその体制を整える。	利用開始時の説明と、容体変化時の確認を行なっています。今まで2人の看とりを実施している。今後の課題として、医療依存度の高い利用者への対応について検討を行っていることを確認しました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡マニュアルを作成 救急法の研修も外部講師依頼で行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災訓練を行う。職員の連絡網の徹底 今年度は自治会と共同訓練に取り組む予定	定期的な訓練が実施されておりことが、確認できました。自治会との協力体制のもと更なる充実を期待します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、無理強いせず声掛けや対応に工夫する。声掛けは必ず依頼形で行い、介助も対象者によっては可能な限り同性介護を行う。トイレやオミツ交換入浴などはプライバシーに十分配慮する	利用者の個性や特性に配慮した支援が行なわれています。それは食堂の席配置や声かけの工夫などに表れており、理念に沿った実践がなされていることが評価の高い点としてあげられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を自由に表出出来る様受容的態度で接し信頼関係を築く心がけている又、思いや希望を自己決定できる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	先ず利用者本位を常に意識し、利用者のペースを大切にゆとりをもって関わるよう心掛ける		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着と寝衣の着替えを朝夕行い、整髪男性の髭剃りも可能な限り行ってもらい出来ないところを支援する。洋服のコーディネートも出来る方にはして頂くよう働きかける。汚染時は速やかに着替え、清潔に配慮する		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の咀嚼 嚥下 摂取の量に応じた食形態を提供。食事は一括調理の為嗜好への対応は難しいがおやつづくりは利用者と共に考えながら月1~2回行っている	認知症状により、皿が多いと食事に集中できない方には、ワンプレートのものを使用したり、母体病院の栄養士との連携により個別性に対応していることが確認できました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を把握するために記録している。好みや形態を考慮し対策を検討している。又水分摂取が厳しい場合ポカリゼリーお茶ゼリーでの提供も行っている又、食事摂取が不十分な場合医療機関と相談 補助食品も考慮		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自立の方は口腔ケアの声掛け仕上げの確認。一部介助 全介助の方にはそれぞれに応じた介助を毎食行う。又、義歯に関しては毎食後義歯洗浄剤を使っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体能力を見きわめ、トイレでの排泄を基本に支援を行っている。本人の尿意 便意を大切に訴えが有れば速やかに対応。訴えは無いがその行動で察知できる場合は適切な対応を行う。常に排泄形態が適切であるか否かも検討	排泄記録から利用者一人一人にあった支援方法、排泄用品の工夫がなされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録をもとに水分摂取量 食事摂取量排便の状態(量 形状 回数)を把握し水分の量や食事の形態 内容の検討 又体操などもより入れ腸の善導運動を促す働き掛けにも取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1対1の入浴を基本に行うが、その日の体調 気分等を考慮し柔軟に対応している。入浴を拒まれる方には声掛けや気の合う人と一緒にさそう等の工夫も行っている。又デイのない日曜日は温泉の入浴を行い、利用者に喜ばれている	利用者のADLや、その時々意向に沿った支援が行なわれています。事業所にある温泉も活用されていることが確認できました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や起床の時間に関しては個人の生活習慣や気持ちを尊重し柔軟に対応。日中も本人の思いや身体状況に応じソファやベッドで休息できる様対応		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容説明書をファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている、薬剤変更や臨時薬は個人記録に記載し、申し送って情報を共有。又、症状に変化が有る場合速やかに医師に報告。連絡を密に摂るように心掛けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の生活歴、趣味、家族の意向等の情報をもとに本人の出来る事、得意な事が発揮できる環境つくりと、ともに暮らすものの一員として役割をもってもらい、心地よく暮らすには常に考えながら支援する。外出やレクリエーションの機会も多く持つ。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物等状況を見ながら対応。ご家族の協力も得ながら外出外泊も支援。又、年に数回は花見や祭りなどにも出かける事を計画している	利用者の状態や、その時々気分により外出支援を行なっている。隣のスーパーへの買物や、近隣の公園への外出など、できるだけ外出の機会を設定していることが分かります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は皆さん困難な為本人の欲しいものや希望が有れば家族に連絡 相談して対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望が有れば対応しているが 手紙は昨年度は年賀状を出したが今年度は実施出来ない。来年度は是非取り組みたい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家庭に近い形にするように温度湿度などにも気を配り テーブルには季節の花 壁には季節を感じるような飾りつけなどを考えている	事業所が高台にあり、景観を楽しむことができる共有空間の配置や、季節感を味わえるような飾り付けを確認できました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し 気の合う仲間と談笑したり、ゆっくりくつろぐことが出来る様配慮している。又居室への行き来も自由に出来自分自分の想いで過ごすことが出来る様配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と相談し馴染みの家具や物品を持ち込んだり 好みの飾りつけを誌ながら居心地の良い落ち着いた環境作りを心掛けている	ご家族とも協議し、たんすや鏡台などを居室に置き、安心できる空間をつくるなど工夫している点が見られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッド回りや廊下に手摺り 介助バーの設置 日中も出来るだけ椅子への移乗 トイレやベッドへの移乗も残存機能を維持できる様 又わかる事をを十分把握し 大切に関わるよう心掛けている		